



まだ元気だったかつての日、魚とりが好きだった塙本さんの思い出刻む写真。昭和32年11月29日、新開でかがり網によるこの大漁。ひと晩に何十貫もあげたこともある。今は、遠い昔の思い出として残るばかり。

悲しい運命
伸ばしてきた結婚だった
兄ちゃんがもうわんなや…
、弟たちから圧力がかかるつ
たのがまたとない契機になつ
たをうな。

き伸びしてきた結婚だったが、
「兄ちゃんがもらわんなり……」
と、弟たちから圧力がかってきて
たのがまたとない契機になつたの
だそな。

悲しい運命

「やれり」とも、相手が〇〇患者だといふことは十分知つて、お嬢様にいひおたんだじょうが、よほ決心がつきましたね】

回家をやめ、足を折り、つらつら聞いてしまつたものだが、そんな間に対して、和枝さんは笑つて答えた。

「あらん、ちゃんとひのいよは聞かされしよもつたか、〇〇中毒症といふのが、あわなじよども、おおらの着まで折しゆるひむじものだとば、思ひもしません。

三川鉱の、常一番勤務の採車仕
繩工だった塙本美治さんは、すで
にその日の勤務を無事に終え、人
車に乗って坑口に向かい昇坑中だ
った。
その日——昭和三十八年十一月
九日、与えられた仕事は、その頃
二十一鉄に展開していた切羽の壁
裏の、たしか二段払いの脚かえな
どだったと記憶しているが、その
ときの彼にはそんなことはどうで
こにひそむあらゆる角どもを一網打
ことにしていた魚どりのための算
段で、頭のなかはいっぽいだった
自分さす場所は、大牟田市北辺部
の干拓地。あたりには大小さまざま
な撒り割りやクリークが散在し
ていて、魚どりの好きな彼にはか
っこうの漁場だったのだある。

流れた計画

獲物は、フナやコイ、ボラ、スズキ、ウナギ、それにタイワンドジョウの俗名で呼ばれる雷魚などだつたが、聞けばそんな獲物を、わずか三、四人でひと晩のうちに何十貫もあげたこともあると云う。その日は、土曜日だつた。だとえ、その後一睡もしなくてさあ明

内 の す べ て の 照 明 が 消 え た 。 な お 車 に 帰 つ て い る 者 同 志 お 互 い に 顔 を 見 合 わ せ る 暇 も な か つ た 。 上 の 方 か ら 、 真 っ 黒 い 煙 が ワーッ と ば か り に 製 い か つ て き た 。 あ わ て て 、 両 手 で 口 鼻 を お さ ん だ ま で は 觉 え て い る が 、 そ れ 以 後 彼 の 意 識 は 消 え て い つ し ま つ た 。

彼 は 、 そ の 日 の 夜 な か に 救 護

い。その数えるほどしかいない存命者は、不幸なことに〇〇中毒患者ばかり。そのなかの一人が塚本さんで、彼とて運命の爪からのがれることはできなかったのである。

被災後結婚

塚本さんの住まいは、大牟田市、藤田町八〇一番地。昭和五年七月、た。何とかかんとかいひながらひ
妻は和枝さん。四十四歳。結婚は四十三年。まさしく、夫塚本さん
の被災後のこととて、彼が三十八歳、彼女が三十四歳のときだつ
て、弟妹はそれぞれ独立したり、他家へ嫁いだり。
父親の正治さんは病身ながらも、いま、塚本さんとともに住んでいる。七十二歳。

障を得てゐるが、典型的なCO患者の部にほぐれ。

四十六年三月に行われた主訴医（大牟田地評験病院）の診断書には、次のようなことが記されてい

る。

「自覚症状＝頭痛。頭重。めまい。耳鳴り。冒陽障害。四肢しびれ。性欲減退。不眠。全身倦怠。つかれ易い。不安。くらぐら。物忘れ。意欲減退。

「やがましが」、といひ、父親の声。
とかく過多の毎晩の酒も、「
人の体に悪いの?」……」と心を
める和枝さん。でも、その悪く
知れてくる酒が、頭痛をやがて
不眠を乗り切り、たれよりのまゝ
自分をこなせるくらいを静
る面からすれば、悲しいことな
い避けることのできなかつてしま
と知れば、だれがそれをとがめ

るみがめず、と痛主る

原告団レポート

CO患者—— 塙本 美治 さん

原告印

遺族・CO裁
判、災害責任
追及 特集号

卷之十一

みだりだと云うから、魚とりだと
いつてもさしづめ本格派だったわ
けである。

塚本さんは、そのため魚とり専
用の小舟までもつていたほどで、
今もプラスチック製の小舟がかが
り網などとともに、自宅にちやん
と置いてある。彼は、

塚本さんは、ちょうど大斜坡道の六目賣付近に
用の小舟までもつていたほどで、
今もプラスチック製の小舟がかが
り網などとともに、自宅にちやん
と置いてある。彼は、

そんな彼を乗せた鼻坑電車が、
ちょうど大斜坡道の六目賣付近に
さしかかったときだった。「ボー
ン」という、得体の知れぬもの音
を聞いた、と彼はいう。

の坑道に昏睡状態で倒れているところを救出され、三井天領病院に収容されたが、人の話ではぬかるみと化した坑道の泥のなかに頭をつっこみながら横たわっていたのだ。だった。

男四人、女四人という八人きょうだいの長男。現在四十八歳。父の名は正治さん。境外の製罐工として働き、職場があつた方田鉱の閉山と同時に退めた。母はミシエさんといつたが、昭

と交ったところも見られませんで
したから」
それでも、四十四年四月二十一
日、長女の晴美ちゃん誕生。つい
て四十六年十月十六日、次女の
祐美ちゃんが……。

の娘がおひでゆう一人の子供も
の方。
それでもいざ夕食が終り、塚
さんが次の間の寝床へとほりこ
くと、それを待つていては、は
めて思つ番組にありつくることが
きる子じめたち。母親の和枝さ
ま、ひろ子さん、おひでゆうおひで

んでじて本 た